

1 学校教育目標

たくましさと優しさを兼ね備え、

変化の激しい社会を力強く生きる力を持った児童の育成

2 目指す児童像

思いやりのある子 進んで学ぶ子 最後までやりぬく子

3 学校経営方針 大切にしていこう教育活動

- (1) 自己肯定感や自己有用感の醸成と互いを尊重する心の育成
- (2) 考え表現する力の定着と主体的に学ぶ態度の涵養
- (3) 気力の充実と体力の向上
- (4) 地域とともにある学校づくりと信頼関係の深化

4 努力点

- 児童が自己肯定感や自己有用感を実感できるよう、児童一人一人が学年や学級等で活躍できる場面を意図的に設定し、「ほめる・認める・励ます・信じる」支援の充実を図る。
- QU を活用した児童とともに創る学級づくりとともに、児童同士や児童と教師のふれあいを大切し、温かい絆づくりと魅力ある教育活動を展開する。
- 学力形成及び向上の考え方を共通理解し、授業改善の視点を明確にした研修を計画・実践し、「質の高い学び」を支える指導の充実を図る。
- 「問いの生み出し」「問いの持続」「問いの深化」の学習過程を基本とし、「なぜ?」「なるほど!」「もっとやってみたい!!」を大切にしたい授業を実践する。
- タブレット端末などICT機器等を活用した児童一人一人の資質や能力に応じた活動を意図的・計画的に取り入れ、情報スキルの向上や情報モラルの醸成を図る。
- 健康教育の推進や「時間」「空間」「仲間」の三つの間を保障する運動環境づくりにより、健康・生活スキル習得や体力の向上を図る。
- 学校・家庭・地域が育てたい児童像や目指す学校像を共有し地域とともにある学校づくりの具現化を図るとともに、「対話」を重視して信頼関係を深める。
- 教職員の同僚性や協働性を高め、組織体としての機能的な業務遂行に努める。

5 伊勢崎教育構想2024との関連

(1) 豊かな心育成プラン

① しなやかでたくましい心づくり 【2024重点①】

(日々、有意義に過ごしながら、明日に向かう気持ちをもって自分らしく生きる)

② 温かい絆を育む心と心の関わりづくり 【2024重点①】

(豊かな心で人と進んで関わる)

◎ 人と人との関わりづくり(特別活動・道徳教育)

○ 児童会活動、委員会活動、異学年集団活動や清掃活動の活性化。

(気づき・考え・行動する児童の育成⇒豊かな心、主体性と自治能力の育成)

○ 豊かな体験活動、感謝の気持ちや相手のことを大切にしていることを伝える**あいさつ運動、思いやりの壺、スマイルポスト、歌唱指導、花いっぱい運動**などの推進。

◎ 温かい絆づくり(不登校・いじめ防止)

○ 仲間のよい面を積極的に認め、児童一人一人が輝ける学年経営・学級経営の充実。

(「ほめて、認めて、励まし、信じる」支援。励まし合い、高め合える学年集団・学級集団の育成と居場所づくり、QUの活用)

○ 児童とのよりよい関係の基盤づくり(児童理解)のために、年度初めに**「児童と向き合う黄金の1ヶ月」の実施。**

○ 生徒指導の3つの機能(自己決定、自己存在感、共感的な人間関係)を生かした教育活動の推進。

○ 「対話」を重視し「教えて、考えさせる」指導の徹底。

(命令・禁止⇒助言・忠告へ、ルール⇒自律へ)

○ 「宮郷第二小学校のいじめ防止基本方針」の共通理解と共通実践。

◎ 認め合い・高め合いづくり(インクルーシブ教育・人権教育)

○ 特別支援教育の考え方に基づいた個に応じたきめ細かな支援を充実し、障がいの有無にかかわらず互いに学び合える児童の育成。

○ 他との違いを認めたり許容したりして多様性に気づき受けとめる機会を意図的に設定することによる、共生社会を築こうとする資質・能力を身に付けた児童の育成。

○ 人権が尊重される授業づくり、人間関係づくり、環境づくりの推進。

③ 豊かに生きる健康・生活づくり(自らの健康と生活を向上)

◎ 危機管理意識の醸成

○ 危険や危機を事前に自覚し未然防止するための安全教育の充実。

○ 学校施設の危険箇所の把握・対応・修繕等といった施設・設備の管理の徹底。

◎ 健康スキルの向上

○ 学校保健計画に基づき、早寝・早起き・朝ご飯、歯科指導・薬物乱用防止教育・性教育、学校保健委員会を計画的に実施し、自己管理能力を醸成し、自らの行動に結びつける児童の育成。

○ 安全教育を計画的に実施し、職員の危機管理意識を高めるとともに、正しい判断で落ち着いた行動ができる児童の育成。

◎ 生活スキルの向上

- 5S（整理・整頓・清掃・清潔・所作）の時間や「あいさつ運動」「いせさきトイレピカピカプロジェクト」・「ごみゼロ運動」などの主体性を伴った実践により、自他共に気持ちよく過ごせる児童の育成。

◎ 体力の向上

- 運動に親しむための「**時間**」「**空間**」「**仲間**」を**保証する運動環境**の充実。

(2) 確かな学力向上プラン

① 学びを自己調整する力づくり 【2024重点②】

(学びの主角として、自ら学びに向かう力や姿勢の育成)

② 考え表現する力づくり 【2024重点②】

(自ら考えを形成し、分かりやすく表現する力の育成)

◎ 「なぜ?」「なるほど!」「やってみたい!!」を大切にした授業の実践

- 本時で身に付いた資質や能力を児童の姿として明確にし、「問いの生み出し」「問いの持続」「問いの深化」の学習過程を基本とし、**内発的動機付けを促す「めあて」の提示、自力解決を持続させる対話的な学習活動、「めあて」に沿った振り返りを表現する授業展開の徹底。**

◎ 「質の高い学び」を支える指導の充実

- 学力向上委員会や教科部会を定期的開催し、課題解決に向けた方策の検討と共通実践の徹底。
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図るために、意図的・計画的な研修の推進。
- 教科分担制や少人数による指導により、習熟度に応じた効果的な指導の充実。
- 管理職による意図的・計画的な授業参観、1人2授業以上の授業公開や授業参観による確かな指導力の向上。

◎ 主体的な家庭学習の推進

- 家庭学習の手引きや学校通信等を活用して、学校と家庭とで家庭学習の価値や方法を共有することにより、家庭学習に主体的に取り組む意欲やスキルの育成。
(宿題<自主勉強)。 「やらせる」⇒「やりたい」

◎ 9年一貫指導における英語コミュニケーション力の育成

- 英語モジュールプログラムを活用し、チャンツ・フォニックス・スモールトーク・会話活動等を取り入れた楽しい英語科授業の実施。
- ALTやイングリッシュサポーターの効果的な活用。

③ 学びの基礎力づくり 【2024重点③】

(学びを支える基礎的な力の育成)

◎ ICT機器を主体的にかつ適切に活用できるようにするための活動の設定

- タブレット端末などICT機器等を活用した児童一人一人の資質や能力に応じた活動

を意図的・計画的に取り入れ、情報スキルの向上や情報モラルの醸成を図る。

- プログラミング教育を推進して、ICT機器等活用した情報を収集・判断する活動や発信・伝達する協働的な活動を行うことで根拠や順序性を明確にして、論理的に説明する学習の充実を図る。

◎ 学校全体におけるICT活用の促進

- 「いせさきGIGAスクール」構想に基づく教育活動の展開に努める。
- 情報教育主任等を中心としたICT活用促進体制づくりに努める。
- ICT機器を用いて課題を解決する学習活動を各教科等で取り組む。

◎ ICT活用にかかる家庭と連携した環境構成の促進

- タブレット端末の持ち帰り等を通して、日常的にICT機器を活用する。
- ICT機器を安全かつ適切に活用できるよう情報モラル教育を充実させるとともに家庭への啓発・協力を促進する。

(3) みんなの未来創造プラン

① 未来へ向かう力づくり（主体的に社会づくりに関わる）

◎ 夢や希望をもたせるキャリア学習の展開

- 発達段階に応じた「未来力」学習講座を実施し、夢や希望をもたせるキャリア教育学習の展開。

◎ いせさき教育アンバサダーやカリキュラムパートナーとの連携の充実

- いせさき教育アンバサダーやカリキュラムパートナーとの連携の充実により、魅力ある教育活動の展開。

② 地域とつながる力づくり（持続可能な社会の創り手の育成）

◎ 伊勢崎ふるさと学習の充実

- ふるさとに誇りや愛着心を持つ児童を育む、ふるさと学習の計画的・継続的な実施。

◎ 地域クリーン作戦や各種ボランティア活動などの社会体験活動の推進

- 全校児童参加による校外ボランティア活動の社会体験活動の推進。

◎ 地域で行われる祭り・スポーツ・レクリエーション・伝統芸能などへの積極的な参画の推奨

- 地域の一員としての自覚を育む、地域行事への積極的な参画の推奨。

◎ 地域と育む幅広い知識・能力づくり

- 学校・家庭・地域が育てたい児童像や目指す学校像を共有し、三位一体による宮郷っ子の育成。
- 教育活動における保護者及び地域等の学校支援ボランティアの積極的な活用。
- 学校経営の充実を図る学校評議員会の効果的な運営の推進。
- 学校と家庭の信頼関係を深めるPTA活動の充実。